



SESERAGI-MISHIMA ROTARY CLUB WEEKLY REPORT

クラブ
週報

2011～2012年度 RI会長 カルヤン・パネルジー
RIテーマ REACH WITHIN TO EMBRACE HUMANITY 心の中を見つめよう、博愛を広げるために

クラブテーマ「会員同志の職業を理解し出来ることはし助け合おう」会長 渡邊照芳
副会長 太田政人 幹事 山田定男

第1052回 例会 2011.07.08(金)曇

司会:山本 章君 指揮:久保栄子君
ロータリーソング「我等の生業」

事務所 三島市中央町4-9 小野住環中央町ビル2F
TEL. 055-976-6351 FAX. 055-976-6352

<http://www.seseragi-mishima-rc.jp>

せせらぎ三島ロータリークラブ 検索

例会場 ブケ東海三島

TEL. 055-984-0120
毎週金曜日 第1・第3 夜間例会

会長挨拶

会長 渡邊照芳君

本日は、静岡第2分区、水口正宏ガバナー補佐の代行、小野篤之様ご訪問をいただきありがとうございますので後程ご指導をいただけることと思います。先週会長の今年度方針を



のべさせていただきましたが、一年間出来るだけ会員の職業の紹介をさせて頂くと言うことで、本日は、その第1回でございます。第1回は、石井和郎君の職業を紹介させていただきます。

会社は、三島市加茂川町で(有)大浄(タイセイ)という建築物の清掃業を行っております。

会社を起こしたきっかけですが、この仕事を始める前は川崎でアルバイトをしながら演劇(お芝居)をやっていたそうです。長男が、生まれたのをきっかけにいつまでもヤクザの様な事をしてはいけないと、親類を頼り三島へきたということです。たまたま叔母が清掃業の仕事をやっておりその紹介で、富士市の清掃薬品会社に1年務めたのが、今の仕事の基礎であったとのこと。その会社でどの薬品をどのように使えばきれいに落ちるか害がないかということ学んだそうです。

そして、24年前に(有)大浄を作りました。この名前は仕事も人生も広く大きく、きよめるという意味があるそうです。

そしてこの仕事を通して感じたことは、世間の評価も業界のレベルも低いと思う。それは、だれでも簡単に仕事が始められると思われているから、しかし掃除にも色々な資格があることを知らないと思う。一般の方が行う掃除と、プロが行う掃除の違いを知ってもらう様努力をするとともに時間がかかると思うが、業界のレベルアップ、認知度を上げていきたい。今回、初めて石井君の会社へ訪問させていただきました

した。会社の玄関には、掃除に使う薬品が、ずらりと並べてありました。自分も建設の仕事に携わっており、掃除に関しても多少分かっているつもりでしたが、このようにいろいろな薬品の種類があるとは思っておりませんでした。

現場に合わせ又掃除の内容に合わせて、薬品を調査し建物をきれいにして、お客様に引き渡す、建物完成の最後の仕事だと思います。自分の仕事にプライドをもち、そして業界のレベルを上げる事が、結局自分たちの仕事にプラスになることだと思います。会員の皆様どうかプロとシロウトの仕事の違いを大掃除でも結構ですので試してみてください。来週は石井邦夫君の職業紹介です。

ようこそせせらぎ三島
ロータリークラブへ

小野篤之ガバナー補佐代行(御殿場RC)
豊山徹也君(ガバナー補佐事務局・
御殿場RC)

出席報告

	出席総数	出席率	マークアップ	修正出席率
前々回	25/30	83.33%	27/30	90.00%
今回	26/32	81.25%	会員総数	34名
欠席者	あなたが見えなくて残念でした。			

内田君、遠藤君、大房君、小島君、小林君、土屋君

ガバナー補佐挨拶

小野篤之ガバナー補佐代行

2011～'12年度、積ガバナーは、私が高校に入学した時の2年先輩で、とても俊英で静かに光る存在でした。このたびの巡り合わせに、一入の親近感を覚えるところです。

積ガバナーのロータリー観について

一言でいえば、保守的な視点を保ちたいとおっしゃっています。百年をかけて育んできたロータリーの伝統に、急激な変革は望まない。高潔さを重視したい。これを言葉で表すとすれば、Nobility(高潔さ、崇高な)とObligation(責務、法律上道徳上の義務を負う)。この二つの単語からすぐ連想することは、Noblest of Obligeイギリスの貴族階級の「高貴なるもの、義務を伴う(恩義を施す)」というモラルです。ただこれをロータリアンが一般の人々にストレートに言った場合は、必ず「スカしている」「時代錯誤だ」といったいろいろなリアクションを受けることになるので、あくまでも理念として申し上げたい。

いまこそロータリーの真価が問われる時、魅力あるクラブづくり、品格あるクラブづくりに努めよう。簡素にして充実した、そして気高く美しいものを持っていなければならない。

地区目標について

R Iの方針を如何に地区の目標に結び付けるかが、ガバナーの役目。これも一言でいえば、中山ガバナー年度の踏襲ということ。中山前ガバナーは、松尾芭蕉の俳諧理念である「不易流行」を引用され、「不易」はロータリーの心、「流行」はR Iの新長期計画やR財団の「未来の夢計画」であると論じられました。これに対して積ガバナーは、変わらざるものとしてRCは世界中につながる親睦と職業分類・職業奉仕・職業倫理の昂揚が「不易」に相当し、「流行」は社会奉仕・国際奉仕で、これらは流れに従い出来るだけゆっくりとなすべきものであると論じられています。今年度は中山ガバナーの敷かれたレールに乗って、高野年度にお渡ししたい。

カルヤン・バネルジーR I会長の「こころの中を見つめよう 博愛を広げるために」というターゲットは、世界をつなぐためにロータリーを見つめなおそう、ロータリーはクラブが基本だからとも読み取れる。クラブと地区は対等であり、運動の主体はクラブと個人であるから、インド風に強調すればファミリー・ボケーション・RCという図式になる。

*具体的な地区目標としては

R I人頭分担金\$50⇒\$51/人・年

ポリオ撲滅資金\$23で終結へ

その他は、中山年度の踏襲

*Rのフューチャープラン(長期計画)への対応

三本柱の中心はR I財団・・・2013年にはR I財団の仕組みが大きく変わる

クラブ研修リーダー・・・2010年の規定審議会により、クラブの3年委員として位置づけられ(任命権はクラブ会長)、継続性が求められる(手続要覧)

*東日本大震災への対応

中山年度の義捐金・・・盛岡で開かれた最終のガバナー会で、約9億円集まった。当地区では3.384万9000円。このうち1億を被災地へ送り残り8億を公正で建設的かつ温かい支援の為に「災害遺児就学資金」に充てる。

高校生=12,000円×12月 大学生=500,000円 その他、被災地R支援などを決め、本年度へ引き継いだ。積ガバナーは本年度の最大課題は「東日本大震災への対応」であり、被災地に寄り添う姿勢を示すことが大切である。義捐金はこれで終わりではなく「私たちは忘れていない」事を示す必要がある。このため、引き続き被災地への支援金として、

・毎月第一例会に、封筒を回すなどして1万円程度の支援金をプールする

・一堂に会しての懇親会は遠慮する(軽減する)

等の工夫でロータリーの底力を結集し、復興支援に注力すべきと確信している。最近のR Iは金集めばかりしていてケシカランという声があり自分もそう思うが、次年度以降のR活動の為に、個々のロータリアンはR財団や米山記念奨学生事業にも尽力いただきたい。

*会員増強・維持

地区は4,000人台から3,100人に減少した。凋落傾向は改善されていない。

R Iは2003年からの7年間に、クラブ数は増加したものの会員数はかなり減ったというデータがある。

R I会員増強目標は、毎年各クラブは5月1日までにガバナーエレクトに、ガバナーエレクト5月15日までに地区の会員増強目標を提出することになっている。本年も「各クラブ純増1名以上」となっている。会員増強の方策に王道はなく、一步一步着実に取り組んでいただくほかない。達成できない場合は積ガバナーが頭を丸めることになっていると、地区の増強委員長が言明している。

尚、地区増強・維持セミナー開催後、山梨日日新聞の記事に「RCは会員を募集している」という誤ったメッセージが伝えられた。このためガバナー事務所は、体外文書発行の際には事前チェックの為、控文書を送付するよう指示した。

*GSE(研究グループ交換)

本年の相手地区はオランダであるが、受け入れについて第2分区は除外されている。

派遣については募集中(三島・山岡リーダー)

*ポリオプラスと2億ドルチャレンジ

1985年から取り組んでいるが、発症事例も4カ国となり、あと一息の状況。

これまでに100万人のロータリアンが21億人の子供たちにワクチンを投与した。

ビル・ゲイツ財団から2億5500万ドルのポリオ寄付を受けて、Rも2億ドルを集めようとはじめられた活動。当地区における本年の目標は7万ドルです。

クラブ協議会

クラブ管理委員会

委員長 太田政人君

クラブ管理委員会は、会場監督委員会、プログラム委員会、親睦活動委員会、出席委員会の4つの小委員会で構成されています。

クラブ会長の方針をよく理解し、各小委員会と共に例会を円滑に運営し、また楽しく有意義なものとなり、クラブがより充実したものとなるよう心掛けます。

会場監督

山本 章君

会長幹事をはじめ、会員皆様のご意見を聞きながら、スムーズに、今日の例会は楽しかったと思えるような例会進行に努めていきたいと思えます。

また、会長挨拶や卓話のときに、私語が目立ちますので今年から『お静かに』と書かれたカードをテーブルに置きますのでご協力をお願いいたします。

プログラム委員会

委員長 米山晴敏君

プログラム作成は会長の意志、意向に沿って作りました。親睦会を多く入れることで、卓話のない方がいます。大変申し訳ありません。

10月21日は新会員のリレー卓話としてあります。それまでにたくさんの新会員に入会していただき、一人ひとりの持ち時間が少なくなることを期待しています。

卓話マスターサブをつくり、土屋巧君にお願いしました。

卓話予定者でやむを得ず出来なくなった場合は、土屋巧君が引き受けてくれます。

プログラム通りの例会、行事で進んでいただくことがいちばんですが、変更がありましたら皆さんにご協力をお願いし、努力いたします。

親睦委員会

委員長 中山和雄君

2011～2012年度方針

会長方針でありますよう：会員の職業を理解し出来る事は助け合おう：の言葉に沿った活動をモットーに、親睦委員会の行事を通じて会員相互の信頼を今以上に高めていきたいと思えます。

2011年

7月15日(金)	親睦例会
8月21日(日)	夏の家族会
10月21日(金)	親睦例会
12月16日(金)	クリスマス家族会

2012年

1月6日(金)	四クラブ合同新年会
3月18日(日)	春の家族会
5月18日(金)	親睦例会
6月29日(金)	さよなら例会

出席委員会

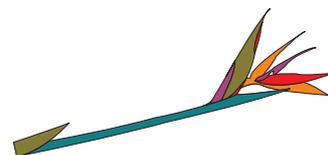
委員長 石井邦夫君

クラブ管理委員会の下で、会長の方針に沿った楽しい例会を応援していきます。出席率の向上、退会者が出ないよう委員全員で一年間サポートしていきたいと思えます。新人には特に気をつけて楽しいロータリーにしていきたいと思えます。会員皆さまのご協力をお願いします。

会計

根津延和君

クラブ運営は会員の会費で賄われていますが、予算は会員数により増減する限られたものです。大切に使いますよう、皆様のご協力をお願い致します。



1. 活動体制

3カ年事業であることから経過、経緯等の掌握等を踏まえ、本委員会には当該年度の会長、幹事、奉仕プロジェクト委員長に顧問として参加していただくよう理事会に要請することとした。

2. 活動方針

大きく分けて2つの観点から検討することとし、①直接現地に対して支援活動をする。②三島エリアにおいて支援の継続等を呼びかける活動をする。とした。

①については、相当多くの費用が必要になることから、どのようなスタイルが最適かを今後の委員会の中で更に検討を重ねることとした。②については、リーフレットの作成を行い、一般の人々に対し街頭などにおいて“忘れないでね！支援活動（仮称）”を訴求していくこととし、その内容については今後の委員会の中で検討することとした。

3. 活動工程

前述活動方針を決定するまで当面、毎月1回程度の委員会を開催することとした。

4. その他

全会員に対して復興支援に関するアイデアを募集したいと考える。

スマイルボックス

渡辺照芳君: 本日は静岡第2分区ガバナー補佐代理小野様、ガバナー補佐事務局豊山様にお越しいただきありがとうございます。1年間宜しくお願い致します。

服部光弥君: 昨日開催した“復興支援委員会”出席出来ず申し訳ありませんでした。

山本良一君: 渡辺会長、山田幹事の新年度2週目です。本年度も良いスタートです。優秀な新会員の2人も加わりました。よろしく願います。



ROTARY NEWS

RI 会長メッセージ

私たちは皆、ロータリーを通じて世界を変えたいと望んでいます。ロータリアンとなる理由は、まさにこれに尽きるのではないのでしょうか。私たちの世界をもっと幸せで、もっと健康的で、そして、もっと平和にすることができ、そして私たちの奉仕活動を通じてより良い世の中をつくることできる、と私たちは信じています。

2011-12年度には、まず自分自身を見つめ直すこと、すなわち「こころの中を見つめよう 博愛を広げるために(R-Each Within to Embrace Humanity)」のテーマを実践していただきたいというのが、ロータリアンの皆さまへの私からのお願いです。深く自己を省みることによって、どこに住んでいようと、私たちが皆、同じ夢、同じ希望、同じ願望、同じ問題を分かち合っていることを、理解していただきたいのです。他の人々のニーズが自分たちの思いと同じだということを私たちが理解し、本当にそう思えるようになれば、私たちの活動がどれほど重要なことかを理解し始めるのです。今年度は、ロータリーの奉仕において3つの強調事項に力を注いでいきたいと思えます。

今年度の第一の強調事項は、「家族」です。家族と家庭は私たちの活動の核となるものです。私たちの奉仕活動も全てここから始まります。そして、家族を通して私たちは地域社会に、さらには会員全員がお互いにいたわり合う広い意味での家族のように、人類全体と接点を持っているのです。うれしいとき、手を差し伸べてもらいたいとき、一人ぼっちの人は誰もいません。

第二の強調事項は、「継続」です。私たちが得意とすることは何かを知り、それを継続しながら次のレベルへと高めていくことです。私たちは、自らの成功を土台に、今後もさらに多くの人々に手を差し伸べ、さらに努力を重ねなければなりません。もちろん、私たちの最大の責務は、今、成功にあと少しのところまできたポリオ・プラスです。

第三の強調事項は「変化」です。真の変化とは、一人ひとりからしか始まることはなく、自らの内面から始めるものであるということを、私たちは理解しなければなりません。平和は、もし自らが与えようとしなければ、他の人と分かち合うことはできません。私たちの家族、クラブ、地域社会といった私たちに身近なものを大切にしなければ、世界中を大切にすることはできません。

マハトマ K. ガンジーは「世界の変化を望むなら、あなた自身がその変化にならなければならない」と言いました。ロータリーにおいては、私たちは、友情と親睦を分かち合い、あらゆる人々の真の価値を見極めるために、倫理的に、誠実に生きようと努力しています。ロータリアンは並みのことには満足しません。なぜならロータリーは非凡な組織だからです。その代わりとして、私たちが自分自身を高めることによって、世界を高めようと取り組むのは、このためなのです。

カルヤン・パネルジー
国際ロータリー会長